

# 経済日誌2007年9月

## 1. モロッコ国内経済

### (1) 国際収支

#### ① 貿易収支(2007年1-7月)<sup>1</sup>

輸出: 688 億 DH=約 9,600 億円(前年同期比 3.6%増)

輸入: 1,389 億 DH=約 1 兆 9,400 億円(前年同期比 13.5%増)

#### ② 観光収入(2007年1-7月)<sup>2</sup>

・観光収入は 314 億 DH=約 4,400 億円(前年同期比 10.6%増)

#### ③ 在外モロッコ人からの海外送金(2007年1-7月)<sup>3</sup>

・海外送金は 308 億 DH=約 4,300 億円(前年同期比 15.4%増)

#### ④ 外国からの直接投資(2007年1-7月)<sup>4</sup>

・外国からの直接投資額は 189 億 DH=約 2,600 億円(前年同期比 32.3%増)

### (2) 財政

#### ① 2007年上半期の税関収入<sup>5</sup>

・上半期の税関収入は 305 億 DH=約 4300 億円(前年同期比 17.6%増)

内訳

輸入付加価値税: 140 億 DH(前年同期比 28%増)

消費税(タバコ税、石油税等): 87 億 DH(前年同期比 14.3%増)

関税: 70 億 DH(前年同期比 8%増)

### (3) 公共事業等

#### ① カサブランカ空港(モハメッド5世空港)第2ターミナルのオープン<sup>6</sup>

・9月8日にモハメッド6世国王臨席の下、落成式が実施された。

・第2ターミナルのキャパシティーは、乗降客数 600 万人/年。空港全体のキャパシティーは 1100 万人/年となる。

・第2ターミナル整備に係る投資額は、約 10 億 DH=約 140 億円(アフリカ開発銀行からの融資等により資金調達)

<sup>1</sup> 為替局ホームページ

<sup>2</sup> 為替局ホームページ

<sup>3</sup> 為替局ホームページ

<sup>4</sup> 為替局ホームページ

<sup>5</sup> エコノマップ(9月12日)

<sup>6</sup> エコノマップ(9月10日, 9月12日)

- ・第2ターミナルの稼働に伴い、2008年上半期以降第1ターミナルの改修を実施(工期は2年～2年半)

#### (4)産業

##### ①航空機産業向け航空大学の創設<sup>7</sup>

- ・Allemande Steinbeis 基金との協力の下、カサブランカに航空大学を建設予定(投資額は、520万ユーロ)

##### ②Akwa Holding社(モロッコ系)によるプロパン・ブタン貯蔵施設建設<sup>8</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・Jorf Lasfar にプロパン・ブタン貯蔵施設を建設(投資額は3億DH=約40億円)

##### ③カサブランカ・マリーナプロジェクトの進捗<sup>9</sup>

- ・2008年には、マリーナ建設に本格的に着手
- ・その後、第2フェーズ(Ramblas)で、タワービル及び商業施設の建設
- ・第3フェーズ(Les Portes Océanes)で、居住、ビジネス用不動産の建設
- ・第4フェーズ(Les Jardins de la mosquée)で、緑地帯及び水族館の整備
- ・2012年に開発完了予定
- ・プロジェクトの投資総額は54億DH(約750億円)
- ・開発は、モロッコCDGが70%、ア首連系Sama Dubaïが30%保有する開発会社によって行われる。

##### ④Chaâbiグループによる風力発電所の建設<sup>10</sup>

- ・エッサウイラ(20MW:2008年末稼働予定)及びタンジェ(50MW:2009年末稼働予定)に風力発電所を建設すると発表
- ・投資額は7千万ユーロ

#### (5)その他

##### ①モロッコ総選挙(下院選挙)の結果

- ・投票率は37%(前回選挙52%)
- ・325議席の内訳

(選挙前の連立与党(下記☆印)は、187議席を獲得(選挙前の議席数は182)

○独立党(PI)☆:	52議席
○公正と発展(PJD):	46
○人民運動(MP)☆:	41

<sup>7</sup> エコノマップ(9月12日)

<sup>8</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>9</sup> Journal l'Economiste (9月13日)

○独立国民連合(RNI)☆:	39
○人民勢力国民同盟(USFP)☆	38
○立憲同盟(UC):	27
○発展と社会主義(PPS)☆:	17
○民主勢力戦線(FFD)	9
○民主勢力運動(MDS)	9
○民主国民党(PND+協生党(AHD)	14
○左派連合(PSU PADS CNI)	6
○労働党(PT)	5
○環境と発展(PED)	5
○再生と公正(PRE)	4
○社会党(PS)	2
○民主モロッコ連合(UMD)	2
○国民主権と発展(ICD)	1
○自由同盟(ADL)	1
○再生と美德(PRV)	1
○国民勢力党(PFC)	1
○無所属	5

・現閣僚のうち、アシャリ文化大臣(USFP)、シェクルーニ外務協力省在外モロッコ人担当特命大臣(USFP)、ブナブダラ情報大臣(PPS)、ブタレブ・エネルギー鉱山大臣(MP)が落選(なお、選挙直前に閣僚を辞し無所属で出馬したエル・ヒンマ内務担当特命大臣は圧倒的な支持を得て当選)

## ②2007年夏季在外モロッコ人の一時帰国数<sup>11</sup>

・5月1日以降の一時帰国数は約194万人(前年比19%増)、帰国に伴う入国車両数は40.5万台(前年比11%増)

内訳(交通手段):船利用が約70%、航空機利用が約30%

内訳(都市):タンジェ経由が約31%、セウタ経由が約17%、ナドール経由が約14%、カサブランカ経由が約12%

## ③モロッコ航空公社とモロッコ郵政公社が、国際配送センター建設に向けパートナー協定に署名<sup>12</sup>

・カサブランカ近郊 Nouacer に国際配送センターを建設

・機能は、モロッコ全国向け国内配送のハブ拠点、及び、国際郵便の中継拠点

<sup>10</sup> Journal l'Economiste (9月28日)

<sup>11</sup> エコノマップ(9月12日)

<sup>12</sup> エコノマップ(9月14日)

#### ④イスラム金融<sup>13</sup>

- ・2007年10月にはモロッコ市場にイスラム金融商品が出回る見込み(2007年3月時点では、7つのイスラム金融機関がモロッコ進出を申請していたがいずれも却下されていた)。
- ・現在、イスラム金融機関は300以上に上り、75か国以上において活動している。その活動規模は、3,000億ドルを超え、毎年平均15%程度拡大している。

#### ⑤ラバト市におけるゴミ収集業務<sup>14</sup>

- ・2001年以降、ゴミ収集業務が4つの企業に委託(Agdal-Ryad地区はSegedema社、Rabat-Hassan地区はOnyx社、Youssoufia地区はTecmed社、Yaâcoub Al Mansour地区はNicolin-SOS NDDグループに委託)されているが、2008年3月までに委託契約が満了となる。現在、ラバト市は、新規委託契約締結に向け準備中。
- ・ゴミ収集に係るラバト市の負担額は、1.1億DH=約15億円/年。収集量は、約30万トン/年

#### ⑥モロッコ貿易銀行(BMCE)の2007年上半期利益<sup>15</sup>

- ・上半期利益は、9.32億DH=約130億円(前年同期比84%増)
- ・顧客預金額は、772億DH(前年比33%増)
- ・対顧客貸付額は、537億DH(前年比34%増)

#### ⑦新首相の任命<sup>16</sup>

- ・モハメッド6世国王は、独立党(イスティクラール党)のアッバス・エル・ファシ党首を新首相に任命

(イスティクラール党は9月7日の下院選挙で、諸政党の中で最多の52議席を獲得)

#### ⑧法人税収入<sup>17</sup>

- ・モロッコ法人税収入の56%は、トップ50企業の負担によるもの

#### ⑨物価上昇に対するデモ<sup>18</sup>

- ・23日朝、フェズ近郊の町セフル(人口26万人)にて、モロッコ人権協会(AMDH(モロッコで有力なNGO))により行われた座り込み・デモの一部が暴徒化し、当局が出動。
- ・上記デモには2500-3000人が参加し、デモを解散させようとした当局との間での衝突により、双方で300人程度の負傷者が出、30人程度の逮捕者が出た。

<sup>13</sup> エコノマップ(9月14日), Journal l'Economiste (9月14日)

<sup>14</sup> Journal l'Economiste (9月18日)

<sup>15</sup> エコノマップ(9月20日)

<sup>16</sup> エコノマップ(9月20日)

<sup>17</sup> Journal l'Economiste (9月20日)

<sup>18</sup> Journal l'Economiste (9月25日)他

⑩ビジネスの行い易さランキング<sup>19</sup>

- ・世界銀行のレポート「Doing Business 2008」によれば、モロッコのランキングは世界 178 カ国中 129 位(トルコは 57 位、チュニジアは 88 位)

---

<sup>19</sup> Journal l' Economiste (9 月 27 日)

## 2. 諸外国等の動向

### (1) 外国企業の動向

#### ① ルノー日産アライアンスのモロッコ進出<sup>20</sup>

- ・タンジェへの工場新設に関し覚書に署名(モハメッド6世国王臨席の下、ジェットウ首相とルノー及び日産の社長であるカルロス・ゴーンとの間で署名)
- ・投資額は6億ユーロの見込み(初期投資額は3.5億ユーロ)。更に、生産する車種に応じて2~4億ユーロが投資される見込み。
- ・工場は、新設タンジェ地中海港より南方25kmに位置し、現在整備中のMelloussaフリーゾーンに建設する予定(敷地面積300ha)。
- ・年内にモロッコ政府とルノー日産との間で最終契約書を締結後、2008年工場建設着工、2010年工場稼働予定
- ・工場では、ルノー及びDACIAブランドの乗用車(とりわけLOGANという車種)、及び、日産ブランドの次世代小型商用車を製造する予定。
- ・2010年の自動車生産台数は20万台/年、その後40万台/年を予定。90%は欧州をはじめとする全世界への輸出向け。10%はモロッコ及び北アフリカ中東域内での販売を予定している。
- ・工場における直接雇用は6千人、間接雇用は3万人を見込んでいる。
- ・ジェットウ首相は、「モロッコ側は、土地を提供するとともに、ルノー日産と協力の下、タンジェ地方に自動車産業向けのハイレベルの職業訓練センターを設立する予定である」と述べた。
- ・ゴーン社長は、タンジェ地方を選んだ理由について、「ヨーロッパに近くアフリカの玄関口であるという立地条件に加え、港、道路等のインフラが整っており、更に、モロッコには発展していこうという強い意欲があったからだ」と述べた。
- ・ゴーン社長は、本件工場の競争力について、「ルーマニアの工場(車種LOGANを生産)、トルコの工場(車種Clioを生産)よりも高い競争力を有すると見込んでいる」と述べた。
- ・ゴーン社長は、価格と品質との両立について、「低価格の車は世界中に多く存在するが、それを気にしてはいない。手頃な値段に加え、頑強で信頼性のある高品質の車を製造することが成功の鍵だ」と述べた。

#### ② 仏系Société Générale Asset Management Altanative Investments社が不動産基金を設立<sup>21</sup>

- ・オフィス賃貸等対企業向け基金と、ホテル等向け基金の2基金を設立
- ・両基金の自己資金は15億DH=約210億円、可能投資額は50億DH=約700億円

#### ③ ア首連系Al Maabar社によるラバト・ブーレグレグ川流域開発<sup>22</sup>

<sup>20</sup> エコノマップ(9月3日, 9月4日)

<sup>21</sup> Journal l'Economiste (9月4日)

<sup>22</sup> Journal l'Economiste (9月9日)

- ・ラバト・ブーレグレグ川流域開発の河口開発フェーズ(Bab El Bahr)に関し、ア首連系 Al Maabar 社とブーレグレグ川開発公社は合弁会社 Bab El Bahr SA を設立 (Al Maabar 社と公社がそれぞれ 50%を出資)
- ・河口開発フェーズ(Bab El Bahr)の工事は 2008 年初頭に始まり、工期は 3-4 年の予定。投資総額は、35 億DH~40 億DHで、住居地区整備(開発面積の 70%)、不動産・観光開発、娯楽施設整備等を実施する。建物の販売価格は、平均 7 千DH/m<sup>2</sup>=約 10 万円/m<sup>2</sup>を見込む。

④Thomas&Piron社(ベルギー系)、Palmeraie de Marrakech社(モロッコ系)、モロッコ貿易銀行(BMCE)社によるワルザザットにおける観光開発投資<sup>23</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・投資額は 54 億 DH(約 750 億円)
- ・ホテル、ゴルフ場建設等

⑤エジプト系OrascomグループによるTan Tan地区における観光開発投資<sup>24</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・Tan Tan 地区”Oued Shbeila“における観光開発
- ・投資額は 60 億 DH(約 850 億円)
- ・ホテル、住居、娯楽・スポーツ施設の建設等

⑥スペイン系Fedesa-MartinsaによるGuelmim地区における観光開発投資<sup>25</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・Guelmim 地区”Plage Blanche”計画に対する投資
- ・投資額は 100 億 DH(約 1400 億円)
- ・ホテル、住居、ゴルフ場、娯楽施設の建設等

⑦ア首連系Reem Investments社によるマラケシュ観光開発投資<sup>26</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・”Atlas Garden”計画に対する投資
- ・投資額は 65 億 DH(約 900 億円)
- ・ホテル、ゴルフ場、不動産複合施設の建設等

⑧仏系Valeo社によるワイヤーハーネス工場拡張に係る投資<sup>27</sup>

- ・投資に係る取決めに署名

---

<sup>23</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>24</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>25</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>26</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>27</sup> エコノマップ(9月13日)

- ・Valeo Bouznika 工場の拡張(投資額は 2.2 億 DH=約 30 億円)

⑨米系P&G社による洗剤製造工場拡張に係る投資<sup>28</sup>

- ・投資に係る取決めに署名
- ・モハメディア工場(Industries marocaines modernes)の拡張
- ・投資額は 2.2 億 DH=約 30 億円)

⑩米系P&G社のモロッコ子会社(IMM社)の 2010 年輸出目標<sup>29</sup>

- ・2010 年の輸出目標は 5 億 DH=約 70 億円(うち 6 割はアルジェリア向けの輸出)(2006 年輸出額は 2.5 億 DH)
- ・2010 年売上につき、2006 年比倍増を目標(2006 年の売上高は 25 億 DH)

⑪石油探査契約、石油予備調査契約の締結<sup>30</sup>

- ・炭化水素鉱山公社が、英国系 MND Maroc 社(tchèque Moravské Naftové doly Group の子会社)との間で、石油探査契約(対象は、Boudnib)、石油予備調査契約(対象は、ワルザザット地域)を締結
- ・現在、炭化水素鉱山公社は、国内外 25 社との間で、22 の石油探査契約、6 の予備調査契約を締結している。

## (2)経済協力

### (ア)モロッコへの援助

①日本による有償資金協力<sup>31</sup>

- ・6日、地中海道路建設事業(円借款融資対象区間)の起工式が、モハメッド6世国王臨席の下実施された。
- ・地中海道路建設事業は、タンジェ〜サイディア(Saidia)間の地中海沿岸道路 510km を整備する事業。現時点で、267km につき整備が完了している。

②アフリカ開発銀行による経済協力<sup>32</sup>

- ・第2次国家地方道路整備計画に対する 4500 万 DH(約 6 億円)の借款を決定
- ・アフリカ開発銀行は、モロッコに対し、1970 年以降これまでに、84 のプロジェクト(約 40 億ユーロの借款)に対する支援を行っている。

③イスラム開発銀行による経済協力<sup>33</sup>

---

<sup>28</sup> エコノマップ(9月13日)

<sup>29</sup> Journal l'Economiste (9月21日)

<sup>30</sup> エコノマップ (9月14日)

<sup>31</sup> エコノマップ (9月7日)

<sup>32</sup> エコノマップ (9月7日)

<sup>33</sup> エコノマップ (9月18日)

- ・モハメディアのガスタービン発電所(300MW)建設に対する 1.37 億ユーロ=約 210 億円の借款を承認
- ・イスラム開発銀行によるモロッコへの経済協力は、これまでで総額 34 億ドルに達する(2007 年に承認された援助額は 5.24 億ドル)

(イ)モロッコからの援助

- ①ブルキナファソの洪水被害に対する緊急援助を発表<sup>34</sup>
  - ・緊急援助として 400 個のテントを送ることを発表

---

<sup>34</sup> エコノマップ (9 月 17 日)